

20日 月曜

エステル

8:1 その日、アハシュエロス王は王妃エステルに、ユダヤ人を迫害する者ハマンの家を与えた。モルデカイは王の前に来た。エ斯特ルが自分と彼との関係を明かしたからである。

8:2 王はハマンから取り返した自分の指輪をはずして、それをモルデカイに与え、エ斯特ルはモルデカイにハマンの家の管理を任せた。

8:3 エ斯特ルが再び王に告げて、その足もとにひれ伏し、アガグ人ハマンがユダヤ人に對してたくらんだわざわいとそのたくらみを取り除いてくれるように、泣きながら嘆願したので、

8:4 王はエ斯特ルに金の笏を差し伸ばした。そこで、エ斯特ルは身を起こして、王の前に立って、

8:5 言った。「もしも王さま、よろしくて、お許しが得られ、このことを王さまがもっともとおぼしめされ、私をおいれくださるなら、アガグ人ハメダタの子ハマンが、王のすべての州にいるユダヤ人を滅ぼしてしまえと書いたあのたくらみの書簡を取り消すように、詔書を出してください。

8:6 どうして私は、私の民族に降りかかるわざわいを見てがまんしておられましよう。また、私の同族の滅びるのを見てがまんしておられましようか。」

8:7 アハシュエロス王は、王妃エ斯特ルとユダヤ人モルデカイに言った。「ハマンがユダヤ人を殺そうとしたので、今、私はハマンの家をエ斯特ルに与え、彼は柱にかけられたではないか。

8:8 あなたがたはユダヤ人についてあなたがたのよいと思うように、王の名で書き、王の



①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

指輪でそれに印を押しなさい。王の名で書かれ、王の指輪で印が押された文書は、だれも取り消すことができないのだ。」

8:9 そのとき、王の書記官が召集された。それは第三の月、すなわちシワンの月の二十三日であった。そしてすべてモルデカイが命じたとおりに、ユダヤ人と、太守や、総督たち、およびホドからクシュまで百二十七州の首長たちとに詔書が書き送られた。各州にはその文字で、各民族にはそのことばで、ユダヤ人にはその文字ことばで書き送られた。

8:10 モルデカイはアハシュエロス王の名で書き、王の指輪でそれに印を押し、その手紙を、速く走る御用馬の早馬に乗る急使に託して送った。

王はエ斯特ルにハマンの財産を与え、モルデカイに地位と権力を与えました。ある人はこれで安泰と喜び、次にはそれを守ろうとするかもしれません、エ斯特ルたちは違いました。ユダヤ人を守ろうと「泣いて嘆願した」のです。

主に従う者は祝福され、財産や名誉が与えられることが多いのですが、それを自分の欲のために用いれば、そこから衰退は始まります。地位も財産もみこころのために用いましょう。

先のユダヤ人迫害のための指令は王の直接の名と印があったものではありませんでしたから、今名と印があればさきのものよりも権威があり、それが有効になります。ユダヤ人は救われたのです。まさにそれは危機一髪でした。主の御手は決して遅くなることはないので、心配しそうのことなく、主に信頼し続けましょう。その安心の中で、勇気を持って主に従いましょう。主のみこころのために決断しましょう。

④この世にあって何を実践しますか？

